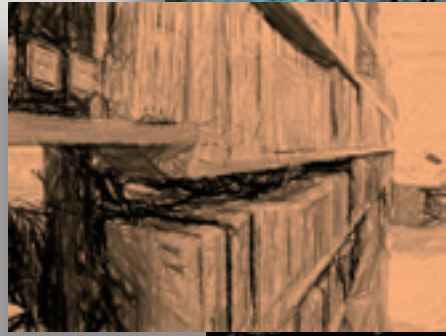


農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信



読書の昨今

教職・学術情報課程 主任 額田 恭郎

御存知の様に昨今の情報発信の展開は目覚しく隔世の感があります。学生時代見る事さえ適わなかった書籍でもキーボードを叩くと簡単にしかも無料で入手可能と成りました。御蔭で私の書棚はプリントアウトしたPDFファイルで埋まりつつあります。例えば二十一代集の内、玉葉・風雅和歌集等は人口に膾炙されるにも関わらず入手は比較的困難ですがこの様な書籍でも online clickで手に入る便利な時代になりました。無論刊本の価値が無くならずた訳ではなく、字典類書の類は製本され用意周到な索引が付いた物が私には使い易く感じます。

兎に角読書するには良い時代になったと言えますが、出版社は自らの意思とは関係なく売れる物を作らねばならないという足枷があると業界人から聞いた事があります。売れる物、良い物、では必ずしも無い事はお分かり頂けると思いますが、将にこの一点に図書館の意義があるといつても良いのではないのでしょうか。一般に古典籍は人気が無く出版されたとしても高額であり専門家以外には買わない気になら

平成25年度 学芸員・司書就職先一覧

平成25年7月24日 現在

採用種別	学年	卒業年度	学科	就職先	採用種別	学年	卒業年度	学科	就職先
学芸員 現役(合格)	1	2012	畜産学科	公益財団法人宇都市常盤動物園協会	司書 現役(合格)	1	2008	農学科	神奈川県立生命の星・地球博物館
	2	2012	畜産学科	一般財団法人 自然環境研究センター(嘱託)		2	2007	農学科	北九州市立いのちのたび博物館
	3	2012	バイオセラピー学科	はままつフラワーパーク(嘱託)		3	2008	森林総合科学科	箱根町立箱根湿生花園
	4	2012	バイオセラピー学科	よこはま動物園ズーラシア(嘱託)		4	2010	生産環境工学科	田村薬品工業株式会社(薬草園)
	5	2012	バイオセラピー学科	マザー牧場		5	2008	造園科学科	埼玉県自然学習センター
	6	2012	バイオセラピー学科	市原ぞうの国		6	2002	生物生産学科	釧路市立博物館
	7	2012	バイオサイエンス学科	富士サファリパーク		7	2011	アクアバイオ学科	さいたま水族館(臨時職)
	8	2012	バイオサイエンス学科	鴨川シーワールド		1	2012	バイオセラピー学科	埼玉県職員(司書 嘱託)
	9	2012	国際農業開発学科	国立科学博物館(臨時職)		2	2012	バイオセラピー学科	織田学園 織田栄養専門学校図書室(臨時職)
	10	2012	生物生産学科	富士サファリパーク		3	2012	造園科学科	埼玉県立川の博物館(司書・学芸員 嘱託)
	11	2012	生物生産学科	富士山こどもの国		4	2012	造園科学科	桜美林大学図書館(嘱託)
	12	2012	アクアバイオ学科	小樽水族館		5	2012	食料環境経済学科	草加市教育委員会生涯学習課(司書・学芸員 臨時職)

展示のお知らせ

- 開館10周年記念展示 「農と祈り——田の馬、神の馬——」
- 展示期間・場所 平成26年3月28日(金)～平成26年9月15日(月) 1階企画展示室
 - 主催 東京農業大学「食と農」の博物館
 - 共催 東京農業大学・学術情報課程及び履修生
 - 展示資料協力機関 馬の博物館、奥州市牛の博物館、遠野市立博物館



編集後記

今回は図書館、博物館、行政機関などで活躍されるOB・OG、先輩方を紹介させて頂きました。次回は、動物園や植物園で奉職される皆様にもご登場頂く予定です。2014年は、世田谷・新図書館のお披露目、「食と農」の博物館10周年記念、厚木・学生会館の整備など、節目の年になりそうです。(R)

学術情報課程通信 第2号 GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2533
レイアウト・印刷/共立印刷株式会社
平成26年(2014)年2月28日 発行
www.nodai.ac.jp/info

- 講演 各日とも14:00～ 2階・セミナー室
4月19日(土)「馬の宗教的機能」小島環禮(琉球大学名誉教授)
5月10日(土)「馬と人の恋 -『遠野物語』とオシラ神をめぐる』前川さおり(遠野文化研究センター学芸員)
- ガラリートーク 各日とも14:30～
4月20日(日)、6月22日(日)、8月10日(日) 黒澤弥悦(東京農業大学教授)
5月18日(日)、7月20日(日)、9月7日(日) 木村李花子
- 午年に因む図書コーナー 1階企画展示室 「農大生の書評-活躍した役畜」「書誌-日本の馬と信仰」

平成24年度 資格取得 状況

東京農業大学
資格取得者数

学部	学芸員	司書
農学部	133	36
応用生物科学部	36	18
地域環境科学部	43	20
国際食料情報学部	25	10
生物産業学部	44	—
合計	281	84

東京農業大学
短期大学部
資格取得者数

学科	司書
生物生産技術学科	1
環境緑地学科	4
醸造学科	0
栄養学科	4
合計	9

「図書館は人間の記憶を伝える社会的装置である。」の定義が好き



国立国会図書館長 大滝 則忠 氏
Noritada OTAKI

1944年山形県生まれ。1968年東京教育大学文学部(法律政治学専攻)卒業。国立国会図書館に36年余を勤務して副館長で退職後、東京農業大学教職・学術情報課程教授を経て、2012年4月から現職。

子どもの頃の夢は何でしたか

結論からいうと、「自分は何になりたかったのだろう？」という感じでした。というのも、戦後の高度経済成長期の前、私が育った山形県川西町には戦前と同じような農村の雰囲気が残っていた時代で、もちろん各家庭にテレビも無く、山村での生活には、自分の将来の「職業」を想像するための情報があまり無かったようです。ただ、農家の次男坊だったため、なんとなく家を出て、都会に行くだろうという感じはしていました。

小さい頃の得意な科目は何でしたか

不得意だったのは、体育や美術です。美術は先生が私の才能を認めてくれませんでした(笑)。農家はいつも人手不足だったため、小さな子どもなりの仕事を分担し、私は「日に一回、山羊の乳しほりもしていました。勉強をしないときは必ず、家の用事をいつけられ、庭の草むしりや、畑仕事でトウモロコシの苗への土かけ、ジャガイモ掘りなどをしていました。

そういった仕事では、「工夫」がとても必要で、工夫することにに関しては人倍やっていました。また、広い畑で入ぼち、二つの苗に土をかけていくというような孤独で緻密な作業は、後で考えると、原稿用紙の升目を埋めることと同じような作業でした。農作業を通じて、自分なりに段取りを考えて組み立てる、工夫することを鍛えられたといえます。

この世界に入ろうと思ったきっかけは何ですか

高校時代に新聞クラブの活動に熱中しました。書くとか、編集するとか、印刷所の中のインクの匂いとかに親近感がありました。作文が得意だったわけではないけれど、ちゃんと論説を書いて、それを編集し、レイアウトを加え、二つの紙面を創り上げる。中学時代までは、図書館とは無縁でしたが、米沢市内の高校時代は下宿生活で、新聞クラブの活動や市立図書館の利用体験は面白かったですね。様々な職業の選択肢に突き当たる中で、国立国会図書館に出会い、試験を受けて合格させてもらい、図書館の仕事に就くことになりました。

ライフワークを教えてください

これはもう、私にとって切っても切れないテーマ。明治以降の戦前期日本の発禁本に関する調査です。なぜ関心を持ったかという点、図書館に就職したとき、本来、すべての蔵書が閲覧できる原則なのに、中には閲覧できないものがあつたこと

に疑問を持ちました。戦前期の出版警察法制度のもとで、多くの発禁本が生じ、もちろん今では現存のものすべて閲覧可能ですが、現存が確認できないものも多く、個々の正確な書名・著者名など、基本的な書誌データも不完全のままです。自分が生きていく限り、発禁本について、今まで世間で極められていなかったことを極め尽くしたい。」と。まさに私にとってのライフワークとなっています。

農大で授業をされて、農大生に対して何かおっしゃりたいことはありますか
農大での六年間の教壇生活は、本当に勉強になりました。農家出身ということもあり、農大の雰囲気がとても好きでした。農大生だけでなく、若い皆さんに言いたいのは、「好奇心を旺盛にして人生を過ごせたら素晴らしい」ということです。毎日の生活の中で好奇心を持ち続けることで生活が豊かになり、生活が面白くなります。自分の中でもキーワードになる言葉が、「好奇心」です。

国立国会図書館長の仕事は楽しいですか

楽しいです。自分が生の仕事と定めた分野で、こういう新たな持ち場を与えてもらって、そこで仕事できることは幸せです。一方で正直、きちんと自分が社会のための重職を果たすことが出来ているか、という思いはありますが、務めを果たすべく努力する以外に途はありません。そして、本人としては、このように仕事できることは、実に楽しい、としか言いようがありません！



取材 古渡翔子(森林総合科学科四年) 室岡肇子(国際農業開発学科学科四年)

学芸員は博物館の専門的職員ですが、私の場合、市教育委員会に在籍する地方公務員として、行政の中で文化財保護行政の一端を担っています。現在の主な業務は、文化財を所蔵する博物館、記念館など公立の十三施設の管理運営と指定のための文化財調査や管理、重要文化財の取扱などです。時には企画展示も担当し、今年度は教育委員会の発掘速報展を開催した他、二つの施設の展示立案に関わりました。また、蚕社の獄により永年となった江戸時代後期の蘭学者・高野長英が獄中で記したとされる「鳥の鳴聲」の自筆草稿を調査し、十月に市の有形文化財に指定することができました。

現在は、市内の全ての施設において文化財保存活用用の共

地方行政と学芸員

通認識がとれるまでになりましたが、平成十八年に二市二町二村が合併した際は、それらを新市の体制に移行する必要がありました。まず、全施設を対象とした保存環境調査を行い、不適切な場合は機器の設置や交換などハード面の対策を行ったほか、施設の学芸員と協力して施設点検や資料目録作成などソフト面の整備を行いました。さらに職員意識改革を行うため文化財保存科学に関する講義と文化財取扱講習を現在も年一回開催しています。このように、学芸員が有する知識や文化財取扱いの技術は、文化財行政に課題を抱える多くの地方自治体で必要とされるはずで、また、専門知識を活かして、特色ある地域創りのプレーンとして活躍することもできるでしょう。どのような職場にあつても、自ら専門性を高め、その知識を発揮する努力が学芸員には求められています。私も研究や教育普及事業に関わる専門職として、学び続ける姿勢を持ち続けていきたいと思っています。



川田 啓介
Keisuke KAWADA

1970年東京都生まれ。東京農業大学農学部畜産学科卒業。奥州市教育委員会事務局歴史遺産課及び牛の博物館 学芸員



田川 裕美
Hiromi TAGAWA

1965年東京都生まれ。東京農業大学農学部造園学科卒業。千葉大学附属図書館 学術コンテンツ課学術コンテンツグループ図書系職員

大学図書館に勤めて

さて現在、千葉大学ではアクティブラーニング・スペースへの既存施設の改修・整備が進められています。これは、能動的な学修、学生同士の学習活動を推進する目的で開設されています。また、ここ数年の図書館関係の雑誌を「ラーニング・ commons」という検索語で探すといくつもの記事が見つかります。千葉大学附属図書館のアクティブラーニング・スペースはこのラーニング・ commonsの性格の強いもので、場所の提供だけでなく学習支援活動が付加されていることが特徴です。添付しました写真もこのアクティブ・ラーニング・スペースに大学院

生による学習相談、教員のオフィス・アワーのデスクと並んで活動している、レファレンスサービスの様子です。

図書館職員でありますと、華々しい場面というのはなかなかありません。しかし、例えば、初めて読む学術論文に引用されている参考文献の書誌情報が読み取れないばかりに、入手できなければもう研究に行き詰まるといった表情で図書館を訪れた学生が、館内に所蔵があるという案内を受けて、安堵したように書架に向かって歩き出す姿をカウンターから見送る時など、教育研究の基盤の端を担っているという確かな手応えを感じられる職業だと思えます。